

ばってん

事務長会報第25号

平成21年3月31日

長崎県公立学校事務長会

長崎西高等学校内
〒852-8014 長崎市竹の久保町12-9
電話 095-861-5106



ホテルモントール長崎
TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号



立春の日の慶事

事務局長(長崎南高等学校)
坊野隆義

春まだ浅い2月4日、立春の日に長崎工業高校の長岡事務長さんが、「意欲と情熱を持って職務に精励し優れた教育実践等を重ね多くの成果をあげるなど本県教育の振興に大きな貢献をした」功績により、平成20年

度長崎県教育委員会教育長表彰を受けられました。

本表彰を受けるのは、県立学校事務職員では初めてであり、もちろん、事務長会員としても初の快挙です。

前夜に「明日県教委表彰を受けます」とメールをもらっていたのですが、前例がないことでもあり、想像がつかず、翌日にベッキーで配信された名簿を見て驚きました。

昨年夏に開催された県学校事務職員協会研究大会において、「1000品目CHECK 限りなく3秒以内の世界へようこそ！」と刺激的な演題で発表されたとおり、バーコードを利用したパソコンによる物品(備品)管理について研究、自らソフトウェアを開発し、実務に活用されています。こういうものを自力で開発した学校は、他に例が無く、おそらく全国初ではないかと思えます。また、バーコードによる物品の管理のための市販システムは多くありますが、ソフトウェアもごく一般的な表計算ソフトを活用するなど、少ない経費で大きな効果をもたらす画期的なものです。開発の経緯・成果等については、平成20年度長崎県立長崎工業高等学校研究紀要「録音15」に寄稿されています。

身近なところでは、図書館で図書等の管理にバーコードが使われていますが、学校の備品にそれを活用するという着眼にまず感服しました。図書館での利用例をみるまでもなく、使用のために持ち運びされる物品を帳簿で管理するには、複雑な事務処理が必要で、その結果、忍耐力も必要となります。パソコンによる管理システムでも、単なる台帳管理よりは、バーコードリーダーで簡単に読ませるだけで物品の管理ができれば、相当な事務の軽減化につながることは容易に理解できますので、今後、このシステムの基本データ作成の簡易化やソフトウェアの完成度がさらに向上していくことを期待しています。

実は、これ以前にも、長岡事務長さんは、校内LANを活用して防犯カメラの校内設置という先進的な研究をされ、その実現にもこぎ着けられています。

詳しいことは、長崎県高等学校教育研究会学校事務部会「平成18年度会報」において紙上発表されていますので、御覧になった会員の皆様もおられることと思えます。

発端は、学校の安全管理の一環として、防犯用カメラを設置しようとしたところ、業者見積りが100万円以上と余りにも高いので、それなら自分でできないか、自

でやろうと決意され、関係の書籍等を探し出し、無料のフリーソフトを利用するなどして、結果的には、その5分の1程度の経費で完成させたとお聞きしております。

システムとしては、カメラを室内のパソコンに繋ぐやり方で、無線LANを利用し、どれかのパソコンをサーバーに見立てて4台1セットにすれば、親パソコン(サーバー)に画面が4分割されてリアルタイムに映し出されるというものです。さらに、ハードディスクの容量節減のための工夫として、動きがあったときだけ録画するという機能まで付加されています。そして、これらの開発や構築を後輩職員たちと共同で取り組まれたそうです。

実務の面でも、物品関係規則等が次々に改正され、平成17年度には定期監査、続く18年度には行政監査、そして19年度には出納の検査、さらに20年度には品管理状況現地調査、定期監査と、毎年監査・検査等実施される中で、長岡事務長さんは、県教委勤務時代から精通しておられる財務関係法規の知識を存分に発揮して対応され、監査委員から賞賛されるほどの業務遂行に加えて、御存じのとおり、平成19年度には、県事務員協会の会長も務められました。

このように、長岡事務長さんは、事務長としてとりわけ多忙な中、持前の時代を読み取る眼、粘り強い探求心、豊富な知識、多角的な視点で先進的な取り組みに戦われてきました。これまでの取り組みで獲得された識や技術は大きな財産であるとともに、一緒に頑張った若手職員の皆さんにとっても貴重な財産になったことと思います。作業をとおして若手職員の育成にも指導力を発揮されてきたことにただただ感服するばかりです。そしてさらに、これら知的財産を惜しげも無く公開し、提供される度量の広さにも感嘆します。このようなことが評価されて表彰を受けられたと推察しております。

私は、今までに、三度ほど長岡事務長さんと同じ職場になりました。いずれの職場でも、仕事で苦心したり、遅くまで残業をしていると、「誰かが見てくれるよ。」と幾度となく励ましてもらいました。それがそのまま、御自身に還っていったのだと思います。まさに「けは人のためならず」という諺のようになりました。

長岡事務長さんの「プロに徹する」情熱と努力を認めていただいたことに感謝するとともに、我々にとっても大きな喜びであり、後に続く後輩たちの大きな励みになったことと信じております。心からお祝いを申し上げます。

特別支援学校に勤めて思うこと

大村養護学校 亀本 徹

初めて特別支援学校を経験して、4年目が終わろうとしています。

当初は、大村養護学校が対象とする障害の種類も知らず、授業料が無い代わりに就学奨励費があるというぐらいの知識しかありませんでした。事務引継の時、当時の校長先生からLD、ADHD、アスペルガーという言葉を知りましたが、意味を理解できませんでした。

文科省によると発達障害等のある児童生徒が6%を超えることから、小・中・高でも適切な教育の実践に取り組まなければならないとされ、特別支援のための教育に触れられることが多くなってきていると思われますので、本校の病弱養護の紹介が皆様の参考になれば幸いです。

本校の発足当初は、隣接する長崎医療センター（旧国立長崎中央病院）に入院する喘息や腎臓病などの慢性疾患の子どもたちが多く通う学校で、多い時は100名を超える子どもたちが在学していました。医学の進歩による気管支喘息治療法の発達や学校検尿の導入による腎炎・ネフローゼ症候群の早期発見などで慢性疾患が減少したこと、隣接する病院の機構改革により慢性疾患を対象とした小児科が廃止されたことで、生徒数が減少しています。平成20年度の生徒数は22名（5/1現在）です。

本校については、よく不登校を対象とした学校と受け取られがちですが、本校の病弱養護は、慢性の内部疾患や何らかの精神的な原因のため、学校生活に困難を感じている児童生徒が、入院や定期的な通院治療を続けながら学習する学校です。

転入も学校間での協議ではなく、医師の診断を基に、小・中学校から地域の教育委員会をとおして県教委に申

請され、県教委で転入校を決めて学校に通知されます。手続きがよく理解されてなく、教育相談などで学校がすぐに受け入れの返事をしないと抗議され困る場合もありましたが、教育相談の方法や基本的事項の確認をするようになり解消しました。

本校には心身症等の子どもたちが多く、昼休みにキャッチボールに興じている姿からは養護学校の子どもたちとは思えません。障害者手帳を持っていない子どもたちがほとんどで、法による支援を受けることもできませんので、将来、自立し、社会参加できる人間を育てることを目標としています。そのため、病気が回復し、自信がついたなら元の学校へ戻るよう指導をしていますが、養護学校のクラス定員は6名で、本校の小学部はマンツーマンに近い状態で指導しているため、児童生徒にとっては居心地よく、保護者にとってはこれまで学校に行けなかった子どもが欠席なく登校していることに安心して、自立に向けた努力を怠ってしまう場合があります。地域の学校、医療関係、福祉関係などと連携しながら、子どもたちの教育をすすめています。

また、本校の子どもたちにはほとんど知的障害はみられないので、中学部を卒業後は高校や特別支援学校の高等部に進学しています。進学先で通学できているかの追跡もし、本校での教育に生かすよう努めています。進学した子どもたちが学校の休みを利用して挨拶に訪れてくれると、つい「元気にしている」「学校は楽しいね？」と声をかけたくくなります。また、子どもたちの1年間の成長には目覚ましいものがあり、その姿を見られることに喜びを感じています。

養護学校に勤務して思うことは、保護者もいつまでも子どもの面倒を見るわけにはいかないの、自立を促したり、法的な援助制度を整備するほかに、地域社会の支援がある社会となるよう情報を発信することも養護学校に勤める私達の仕事ではないかと思っています。

あと一年…学校事務を振り返って

後輩に夢を託して

北松農業高等学校 松田 長幸

本年当初、学校で還暦の祝いを催していただき、赤いちゃんちゃんこを羽織り、今まで若い人にも、気力体力では迷惑を掛けたくないという意識で努めてきた自負が脆くも崩れさりました。あと一年、何事もなく無事卒業できればと思う今日この頃です。

現在、学校事務を取り巻く環境は、厳しいものがあります。又、その事務に携わる人々の考えも種々様となり、若者を育てていく責務をもつ事務長として、どう対応すればよいか迷う毎日です。

振り返れば、私の学校事務に対する考えは最初に勤めた「高島高校」（炭坑閉山により廃校）での仕事・生活が基礎となったように思っております。事務職員一人の学校でしたので話す人は先生方で、仕事はなるべく午前中に仕上げ、午後は、放課後のクラブ活動の指導に備え、余裕を持って仕事をしよう努めました。夕食も独身会で炊婦を雇用し、みんなでワイワイ話しながら食べたものです。

その中で、一番心に残っていることは、教育関係に従事して良かったということです。みんなで議論する話題は、学習向上・クラブの成績向上等、打算のない話題ば

かりで、全て生徒及び学校を良くするためには如何にあれば良いかという話のみであったということです。

それ以来私は、どこに言っても口うるさいと思われようとも、その職場に良いと思うこと（よしんば間違っても、後で誰かが指摘をしてくれることを期待して）は、事務以外でも発言を続けてきました。

今、事務長としてこれからの「学校事務」を思うと何か、吹っ切れないものを感じています。これからの事務職員が何を目標として仕事を進めていくか、日々の仕事の中で見いだす余裕がなく、県からの指示や監査の対応に追われ、自分が担当している仕事さえもその根拠及び効果を探せない状況になっているのではと考えています。

学校を変える又は動かす影響力は、一人の教員より一人の事務職員の方が強いものがあると確信しています。学校事務が「事務センター」、数校での「共同学校事務」等、単なる事務の合理化という一面で議論されていることに危機感を感じ、これからの事務職員さらには事務長として如何に学校運営に携わるべきか重い課題が目の前にあります。

学校の中で、事務室は教育そのものには口を出さないという考えが存在するように思いますが、民間人が校長になれる今、我々が教育を想い、学校全体の運営に携わるのは、今後の学校には必要ではないかと思っています。

しかし、現状では、経験ある事務長でさえも、年若い

校長の一言で対応を変更すべきことが生じます。事務室において学校全体を客観的に見てきた者として、主に教える事のみ従事してきた教員が、トップに立って学校を運営していく訳です。その中で事務長をどう生かすかは上に立った者の人的資質に関わっています。教育内容や生徒指導の問題についても、教師集団のみでの対応となっているようです。又、事務職員も自分は関係ないという考えがはびこっているようです。

これからの事務職員は、教育現場における専門性を見だし、単純な事務処理要員ではなく教育の問題に意見（例えば、子供を持つ親としての）を言える能力を身に付けて欲しいと思っています。これから数十人の事務

長が定年を迎え、若い人がその後が続くこととなりますが、自分が学校を動かすという気概をもって仕事に携わってみたいと思っています。

最後に、私自身でいえば学校以外にも、文化・スポーツなどいろんな仕事に携わる事ができ又、学校関係以外のいろんな方と交流が持て、本当にありがたく感謝しております。

学校の事務室に朗らかな顔がなくなるということと学校組織の中で事務職員ひいては事務長が重要な意志決定に参画できるようになることを強く願い、さらには他県には存在しますが事務長から一人でも校長が実現することを望み、筆を置きたいと思います。

春眠不覺曉

奈留高等学校 高西正隆

この原稿を書いているのは平成21年3月7日（土）の午後です。奈留高校に赴任して早1年が過ぎようとしているところです。

今日はウォーキング（土日に奈留島に居て、雨が降っていない時の日課）を8時30分頃から始め、2時間ほど歩きました。風は少々吹いていましたが、空は青空、気温も寒くもなく暑くもなく早春を感じさせる、ほど良い陽気でした。ウォーキングの途中では奈留島の青い海や山では椿の花を眺めたり、また、ウグイスやメジロの鳴き声が聞こえてきました。ほとんど人とすれ違うことが無く、自然を満喫したウォーキングでした。

そんなウォーキングの途中、考えていたことが1か月以上も前に事務長会広報部からの事務長会誌「ぼってん」への寄稿依頼があったことでした。頭の中では何かを書かねばならないと考えているのですが、なかなか考えがまとまらず、仕事に追われながらずるずると書けぬまま本日に至ったのでした。

ウォーキングしながら何を書こうかと思案していると、

ふと浮かんだのが中国の唐時代の詩人孟浩然の詩「春暁」の一節「春眠暁を覚えず」でした。この一節が頭に浮かんだきっかけは、奈留高校に赴任してすぐの平成20年4月3日の朝のことでした。その日は午後から長崎地区事務長会が長崎で開かれることとなっていたために、奈留島を朝一番の6時35分発のフェリーに乗船し福江に向かい、事前に乗船チケットを購入していた福江発7時30分のジェットfoilで長崎に行く予定をしていました。ところが前日の夜、転勤の疲れから目覚ましアラームをセットしないまま寝入ってしまったので、アラームが鳴りません。私は職員住宅の近くの山で鳴くウグイスの声で目覚めたのでした。私が目覚めた時刻は6時。職員住宅から奈留島の港までは車で10分はかかりました。荷物の準備は前夜に済ましていたが、トイレ、洗顔、

着替えと住宅を出る前にすべきことは色々あります。私もこの時ばかりは、事前購入の乗船チケットを無駄にしないために大慌てで身支度をし、自宅を出て港へ向かい、どうにかフェリーに乗船することができました。ただし、乗船できたのは良かったのですが、髪はボサボサ、髭はのびたまま、スーツを着る予定にしていたのですが、時間が無いために近くにある普段着を着るなど無様な出で立ちでした。まあ、長崎に着いて自宅に戻ればどうにか身だしなみは整えられるかなと、フェリーの中では開き直っていました。

今にして思えば、あの4月3日は今日ウォーキングの途中で聞いたウグイスの鳴き声に助けられたのだなとしみじみと感じました。この原稿を書いている今も窓の外からウグイスの鳴き声が聞こえてきます。こんなに自然豊かな奈留島に助けられたのかもしれない。

恩返しという訳でもありませんが、この奈留島に感謝し、ここで育つ生徒達の進路実現のために学校事務という立場から精一杯のことをして行きたいと思っています。

…… やっと原稿を書き上げてほっとしています。このあと、夕方から地元の方より招待されて飲み会に参加します。近頃は地元の方々との飲み会が増えてきました。大いに奈留島の生活を楽しんでいます。……



我が家から早朝に奈留島の相の浦湾を望む。



ウォーキングの途中に千景敷(せんじょうじき)を望む。遠くに上五島を望む。



ウォーキングの途中に永道(ながはえ)峠から上五島を望む。



ウォーキングの途中に東風泊(こちどまり)を望む。

随想

プロフェッショナル

長崎工業高等学校長 森岡 義幸



本校は創立71周年を迎え、「技術の神髄をつかめ」の校訓のもと、ものづくり、資格取得、多様な進路実現をキーワードに教育活動を進めています。技術の神髄をつかむことは「本物」を目指すことです。

そこで、本物ということについて、自慢話を二つ紹介します。

本校の玄関に入って、気持ちのよい清潔感を味わう方も多と思います。事務室や校長室まわりを含め、玄関や廊下や窓が見事に磨きあげられているからです。このため、外部からのお客様を気持ちよく迎え、私たち職員も気分よく仕事に励むことができます。これは、朝早くから玄関のドアはもちろんのこと隅から隅まで毎朝徹底的に掃除をしてくれている事務職員のおかげなのです。彼をみると、明治から昭和を生き、阪急グループの創業者となり財界の巨頭であった小林一三氏の「下足番を命じられたら日本一の下足番になれ。そうしたら・・・」の言葉を思い浮かべます。そして、この言葉のとおり実践している職員が本校にいることを誇りに思っています。その仕事ぶりたるや一事が万事なのです。プロとはかくのごとくです。彼の仕事の有り様が周りにいい影響として受け継がれていることを喜んでいるところです。

また、本校は、工業高校ということで、扱う備品等施設設備の量がとにかく膨大です。その管理には、各専門科職員との折衝や部屋の点検も含め多大なエネルギーが必要であり、今の時代には特に、誠実な几帳面さが求められています。しかし、事務職員もスーパーマンばかりではありま

せん。普通の人もいるのです。点検等の仕事に時間がかかり立ち往生することもたびたびあることです。この窮状を何とかしようと立ち上がった職員がいます。

それは、事務長を中心にした若手事務職員グループでした。こんなところこそパソコンをもっとフル活用すべしと、わずか半年足らずでバーコードリーダーを活用した物品管理システムの開発に成功し、この窮状に救いの手をさしのべてくれました。かれらの仕事ぶりもまた、一事が万事でした。事務長さんはこれまでの諸々の功績が評価され、今年度の教育委員会表彰で事務職員初となる教育長表彰を受賞されたことは、誠に喜ばしいことであり、事務職員全体の喜びではないかと思えます。

事務室から見た工業高校のおもしろさは、教育環境整備とものづくり教育がセットにできることです。困ったことがあれば、機械、電気、電子、建築、化学、情報技術の分野のプロがいて、アドバイスを受けて、ものづくりの技術が生かせるのです。そのかわり、相手は頑固な職人集団でもありますから、心を通じ合わせる人間性も求められます。心意気が人を動かします。根本に「生徒のために何とかしたいと思う心」「先生方の仕事のしやすい環境づくりの心」があれば、頑固な教員からとことん気持ちのよい協力が得られます。最後に、どの職場にあっても、仕事を楽しむプロであってほしいと願っています。

編集後記



高校野球甲子園大会で長崎県初の全国制覇を達成した清峰高校野球部優勝の余韻に浸りながら、この編集後記を書いています。

ご存じのように、本年度の広報部長は清峰高校の事務長です。今回の『ぼってん』は、その広報部長の人脈のおかげで、皆さんに気持ちよく原稿を引き受けていただき、出だし順調でした。そして、ほとんど校正の必要もなく原稿を印刷所に送ることができました。

ただ、この半世紀に1度あるかないかの快挙の陰で、あてにしていた編集後記の執筆を部長に頼みづらくなってしまい、編集部員の私が今回も書く羽目になってしまいました。

年度末・年度初めの人事関係の具申、かい長の交代等に加え、野球部の甲子園出場と、その忙しさは想像に難くありません。（想像以上でしょうが・・・）ただただ体調を気遣うばかりです。

また、清峰高校以外でも、生徒数・学級数の減少に伴い事務職員が減った学校、事務能力に問題のある事務職員を抱える学校等々、その理由は違っても事務長の職は益々大変になって来ているように思います。さらに、事務長も主事1としての仕事ができなくては事務室運営は立ち行かなくなって来ているようです。

人材育成には時間と根気、そしてなにより忍耐が必要で、この2年、幾度となく「我慢、我慢、このことには意味がある。」と呪文のように自分自身に言い聞かせながら何とか乗り切ってきました。特にこの時期（年度末・年度初め）は、ついつい自分でやった方が楽だし、手っ取り早いのでそうしてしまいがちです。（これでは、いつまでたっても人を育てることはできないと反省しつつも・・・）兎にも角にも、皆様方が（私も含め）健康に留意され、21年度も無事乗り切られんことを祈るばかりです。



(Nao)